



 ロシュ グループ

中外製薬株式会社の取り組み

2026年7月31日

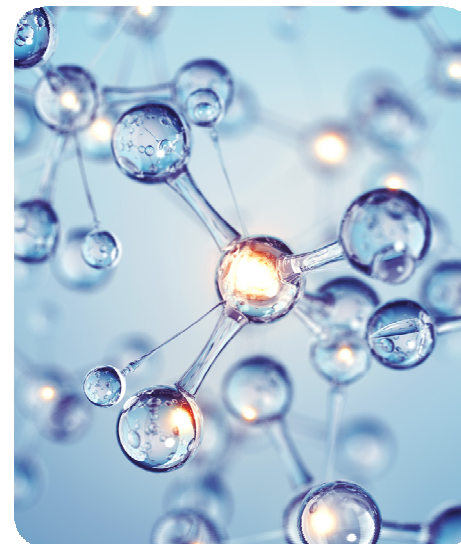
中外製薬株式会社 山本秀一

健康長寿産業連合会「健康経営ビジネスサロン」

1. 会社概要

会社概要(基本情報)

商号:	中外製薬株式会社 (CHUGAI PHARMACEUTICAL CO., LTD.)
代表者:	奥田 修
創業:	1925年3月10日
設立:	1943年3月8日 (ロシュ社との戦略的アライアンス開始: 2002年)
資本金:	732億円
決算日:	12月31日
売上収益:	1兆2,579億円 (2025年12月期)
Core営業利益:	6,232億円 (2025年12月期)
従業員数:	7,872名 (2025年12月期連結)
事業内容:	医薬品の研究、開発、製造、販売および輸出入
本社所在地:	東京
主要株主:	ロシュ・ホールディング・リミテッド (61.11%)
上場証券取引所:	東京証券取引所プライム市場 企業コード4519



ロシュ社との戦略アライアンス

- 2002年、世界有数の製薬会社であるロシュ社と戦略的アライアンスを開始
- ロシュ社との戦略的アライアンスによる安定的な収益基盤をもとに、重要課題に集中投資することで創出価値を最大化



- 中外製品をグローバル市場で最大化
- 豊富なロシュ製品を日本で展開

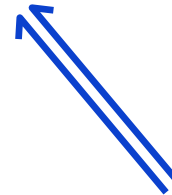
自社創製品



革新的・挑戦的な創薬に特化



ロシュへの導出により
グローバル開発・販売を加速



- ロシュ製品を日本市場で最大化
- 革新的な中外創製品をグローバルで展開

ロシュ導入品



有力新薬候補を
日本市場で独占的に開発・販売



国内事業で安定的な
収益を確保

2030年に向けた成長戦略

- 当社は2030年に向けた新成長戦略として「TOP I 2030」を掲げ、ヘルスケア産業のトッピイノベーターを目指しています

『R&Dアウトプット 倍増』・『自社グローバル品 毎年上市』

世界最高水準の創薬実現

- ▶ 独自の創薬アイデアを具現化する既存技術基盤の拡張と新規技術基盤の構築
- ▶ トランスレーショナルリサーチと製薬技術の追求により、開発品の価値最大化を実現
- ▶ デジタル活用およびグローバル先進プレイヤーとの連携強化によるイノベーション機会の加速

先進的事業モデルの構築

- ▶ デジタルを核としたモデル再構築による患者価値・製品価値の飛躍的向上
- ▶ バリューチェーン全体にわたる生産性の飛躍的向上
- ▶ 医薬品の価値最大化と収益の柱を目指したPHCソリューションの展開

Key Drivers

▶ DX

▶ RED SHIFT

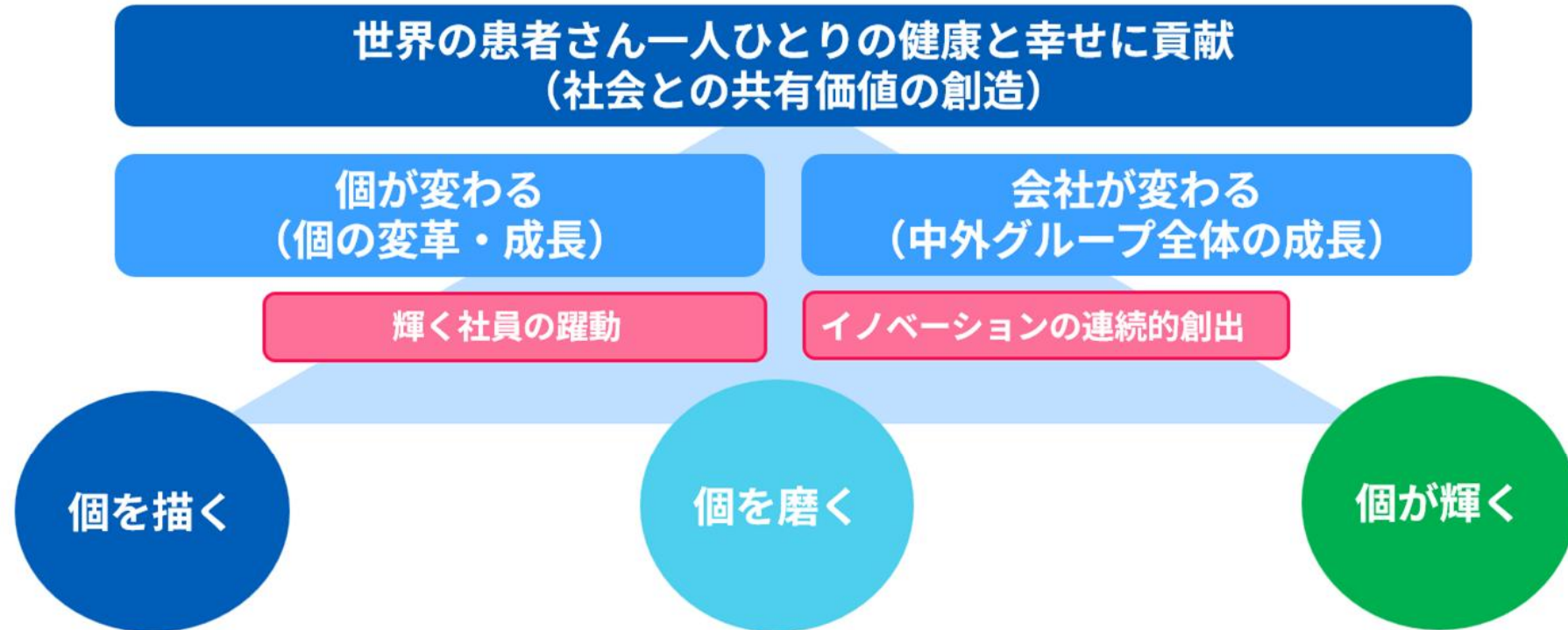
▶ Open Innovation

* RED：Research（研究）とEarly Development（早期開発）の総称、トランスレーショナルリサーチ：創薬で生み出された科学的コンセプトを臨床で検証するための橋渡し研究、PHCソリューション：病態や治療効果を精緻に診断・測定することで、個々の患者さんに最適な治療を可能とする製品・サービス

2. 当社における健康経営

「TOP I 2030」を支える人財マネジメント方針

「多様な個々の発掘・成長・発揮が、個を変え、会社を変え、中外グループ全体の成長に」



社員一人ひとりがキャリアを描き、未来の自己実現とTOPIとシンクロさせる

- Check inの意義・目的理解・促進。対話機会の確保だけでなく、対話の質を向上
- マネジャーのスキル向上・サポート提供、HRBPと連携したCheck in/INSIDES浸透推進
- マネジャーの自律支援型マネジメント実践の推進

社員の自主性を尊重し、社員が挑戦し、自律的な学びや専門性を強化する

- 組織間社員交流、キャリア形成・成長実感の支援を目的とした上司・部下間にとどまらないCheck in実施
- I learning・スキルセットの活用した相互学びの強化
- ロシュ社との人財交流、デジタル人財を含む専門人財の育成促進

社員が自身の力を最大限発揮させ、挑戦によって成長が実現できる環境を整える

- 主体的な「挑戦・成長」の賞賛
- 働きがい改革（社員エンゲージメント×社員が活躍する環境）の推進
- DE&Iの推進、健康経営の推進

2026年健康・安全活動計画

中期マイルストーン

重点項目	目的	2030年目標KPI	2026年の主な活動計画	
①がん対策	早期発見	がん検診受検率90%以上	がん検診受検率90%以上	・個別受診勧奨と外部専門看護師の相談対応継続 ・未受診背景の把握 ・情報発信の継続 等
	早期治療	有所見者の精密検査受診率95%以上 <2027年> 88%以上	有所見者精密検査受診率80%以上	
	両立支援	両立支援相談窓口・制度の認知度（マネジメント層）100%	両立支援相談窓口・制度情報発信の継続	
②生活習慣病対策	ハイリスク者対策	ハイリスク者1%未満継続	ハイリスク者1%未満	・ハイリスク者全員面談による受診確認・経過フォロー ・Growbaseデータ利活用（運動習慣、適正飲酒啓発等） ・&well登録促進および定着 ・禁煙啓発みんなチャレ実施等
	予備群悪化抑制	予備群からハイリスク者への移行1%未満	予備群からハイリスク者への移行1%未満	
	予備群への移行抑制	正常群（A群：基準値内）70%以上	正常群（A群：基準値内）70%以上	
	喫煙対策	喫煙率0% へ向けた取り組み <2027年> 4%未満	9%未満	
③メンタルヘルス対策	予防・早期発見	高ストレス者の面接希望者率:高ストレス者全体の50%以上 <2026年> 35%以上	高ストレス者の面接希望者率の向上、高ストレス者全体の35%以上	・高ストレス者への早期案内による高ストレス者面接希望者率向上等 ・新任マネジャーメンタルヘルス支援・心理職サポート
	復職支援	復職支援プログラム提供率100%	復職支援プログラム提供率100%	
④ヘルスリテラシー向上	健康増進に関する意識改革	事業所講演会実施率100%	事業所講演会実施率100%	・事業所健康講演会の開催 ・事業所間協働開催 ・健康診断と事後措置の重要性周知 ・健康調査票の設問修正（紙結果票確認有無の追記） 等
	行動変容への勧奨	健康診断結果の確認98%以上	健康診断結果の確認98%以上	
⑤職場の身体的安全性	安全衛生リスク低減	EHS内部監査の計画に対する実施率100%	EHS内部監査の計画に対する実施率100%	・事業所実態に応じた労災防止対策の継続 等 ・ヒヤリハットの洗い出しリスクマップ化、対策実施
	安全衛生意識向上	内部監査におけるCAPAの着手率90%以上維持	内部監査におけるCAPAの着手率90%以上	
⑥職場の心理的安全性	健全な組織の増加	総合健康リスクが120以上の組織を5%以下	総合健康リスクが120以上の組織を5%以下	・ストレスチェック組織診断結果活用した高リスク職場への改善プログラム及びコンサルテーション提供の継続 等
		ワークエンゲージメント偏差値45以下組織3%以下	ワークエンゲージメント偏差値45以下組織3%以下	
	働きがいのある組織風土醸成	職場の一体感偏差値45以下組織3%以下	職場の一体感偏差値45以下組織3%以下	

3. 当社のがん対策への取り組み

2025年国内製商品売上高構成比

- 国内製商品売上高のうち、オンコロジー（がん）領域の売上が50%以上を占めています



*1 骨・関節、自己免疫疾患、腎、神経疾患、その他の領域

健康重点項目(がん)の進捗状況

個人の健康			2030年目標
がん対策	早期発見	がん検診	がん検診受診率90%以上
	早期治療	有所見者の精密検査受診	有所見者の精密検査受診率95%以上 <2027年> 88%

26年取り組み
進捗状況ならびに主な

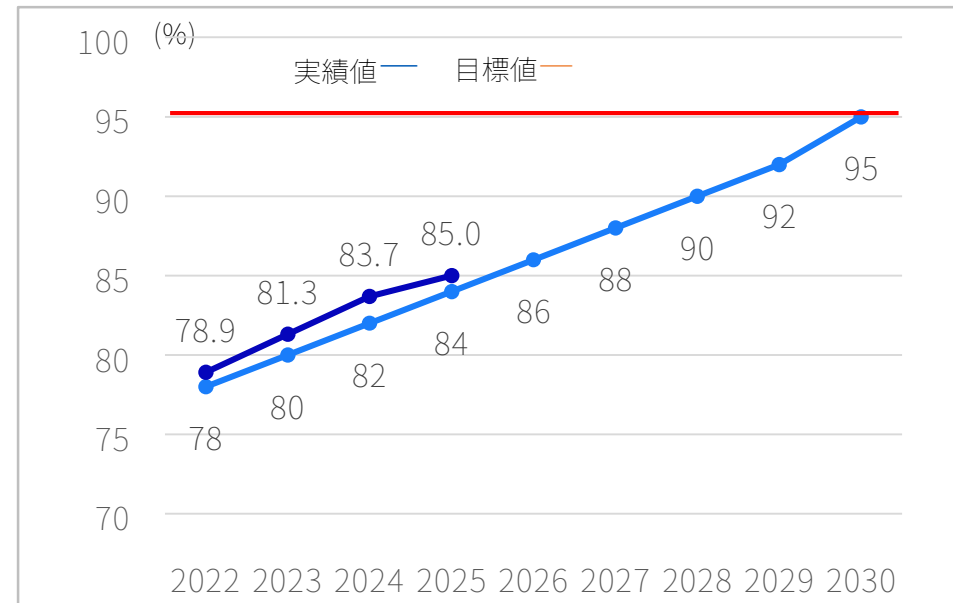
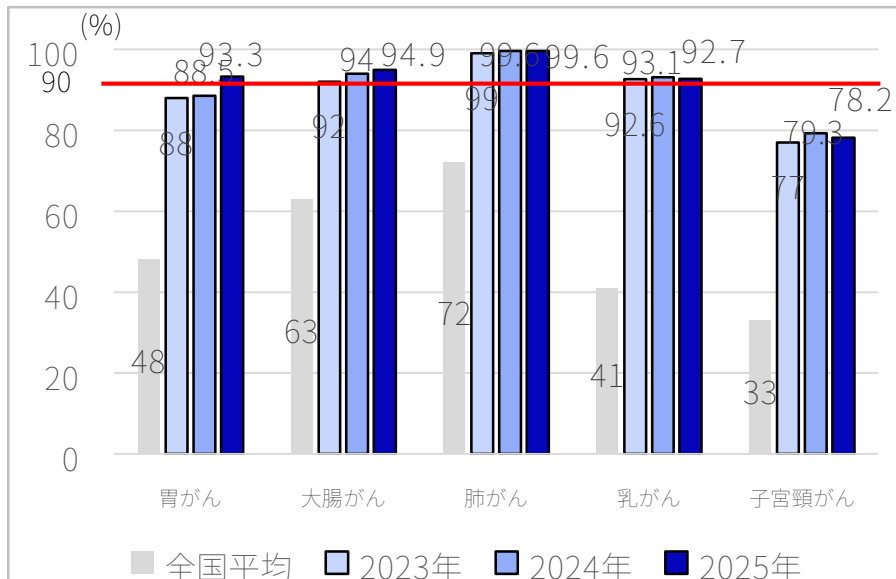
がん検診受診率

- ・全項目において全国平均*を超え
- ・受診啓発継続、未受診背景把握

*出典：厚労省委託事業がん対策推進企業アクション令和3年度調査_5001名以上の企業規模における受診率より抜粋

有所見者の精密検査受診率

- ・目標値より上位にて推移
- ・がん専門看護職による個別勧奨(2022より開始)を継続



当社のがん対策の特徴

I. 「早期発見・早期治療」に向けた環境整備

- 定期健康診断と婦人科健診を同時受診
- 35歳以上は人間ドックを定期健診の代替として認める
- 就業時間中受診を推進

II. データドリブンによる改善(スライド14・15・16)

- がん検診・精密検査未受診者アンケートによる改善策の検討

III. 手厚い個別支援(スライド17・18)

- がん精密検査受診促進策の実施

各種がんの10年生存率(ネット・サバイバル)

- 自覚症状がないうちから定期的にがん検診・精密検査を受け、早期発見・早期治療につなげることが大切

がん種	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4
胃がん	79.1%	52.0%	29.3%	3.9%
大腸がん	79.2%	70.7%	61.6%	11.6%
肺がん*1	64.6%	31.7%	15.4%	2.8%
乳がん	93.7%	85.4%	63.8%	17.0%
子宮頸がん	91.0%	71.0%	52.6%	16.0%

*1 肺がんについては、非小細胞肺がんのみのデータ

がん検診未受診者へのアンケート

■ 受診率データの精査

- 実態を知るとともに、未受診者にがん検診受診の理解を促すことを目的に実施

がん検診外部受診実績の把握および受診率精査

例：自治体のがん検診を受診済み：受診済としてカウント

当日体調不良のため未受診：未受診としてカウント

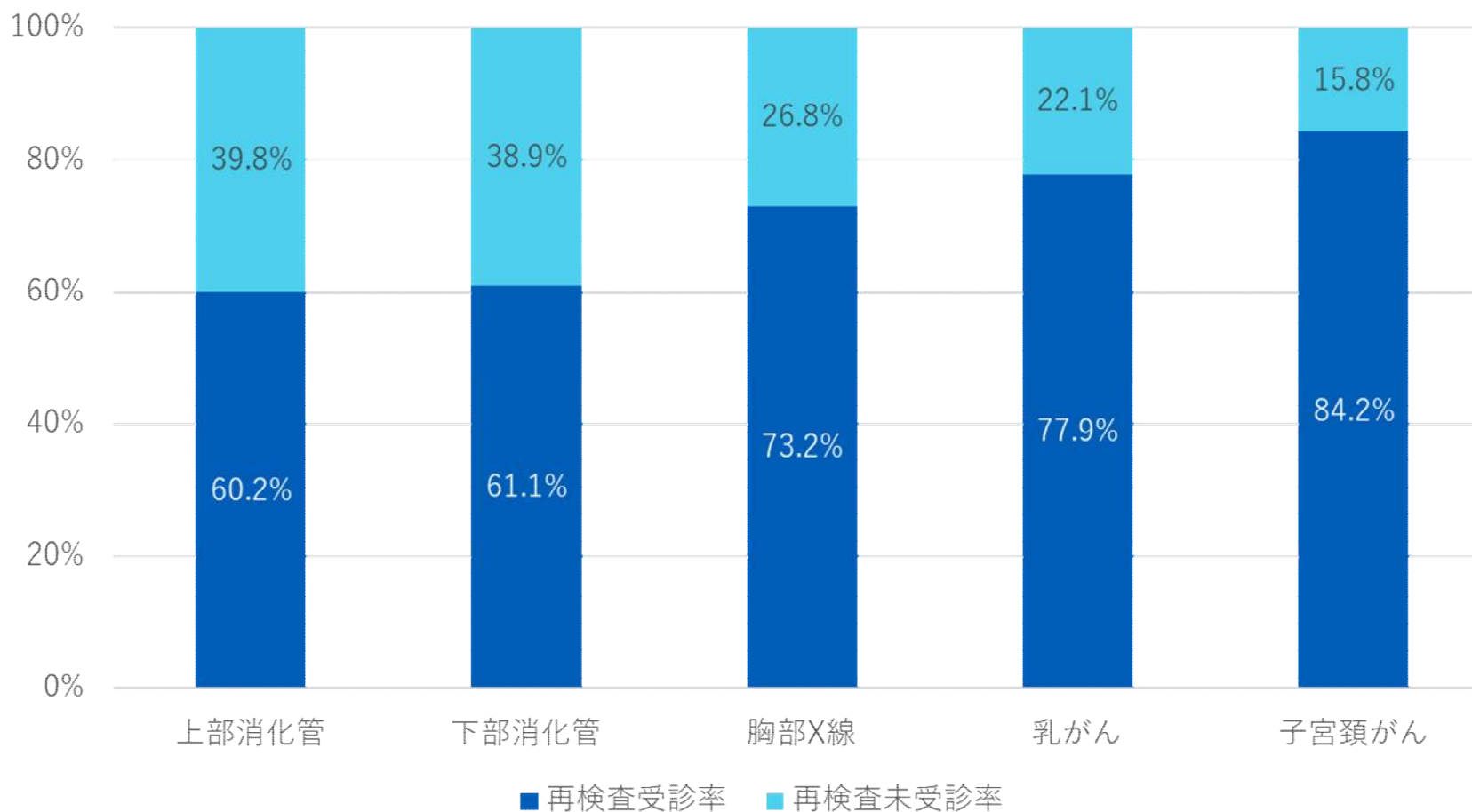
治療中のため医療機関で経過フォロー中：分母・分子からカウントを除外



	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
受診率	93.3	94.9	99.6	92.7	78.2
精査後受診率	95.3	95.7	99.7	96.9	84.6
pt差	+2.0	+0.8	+0.2	+4.2	+6.4

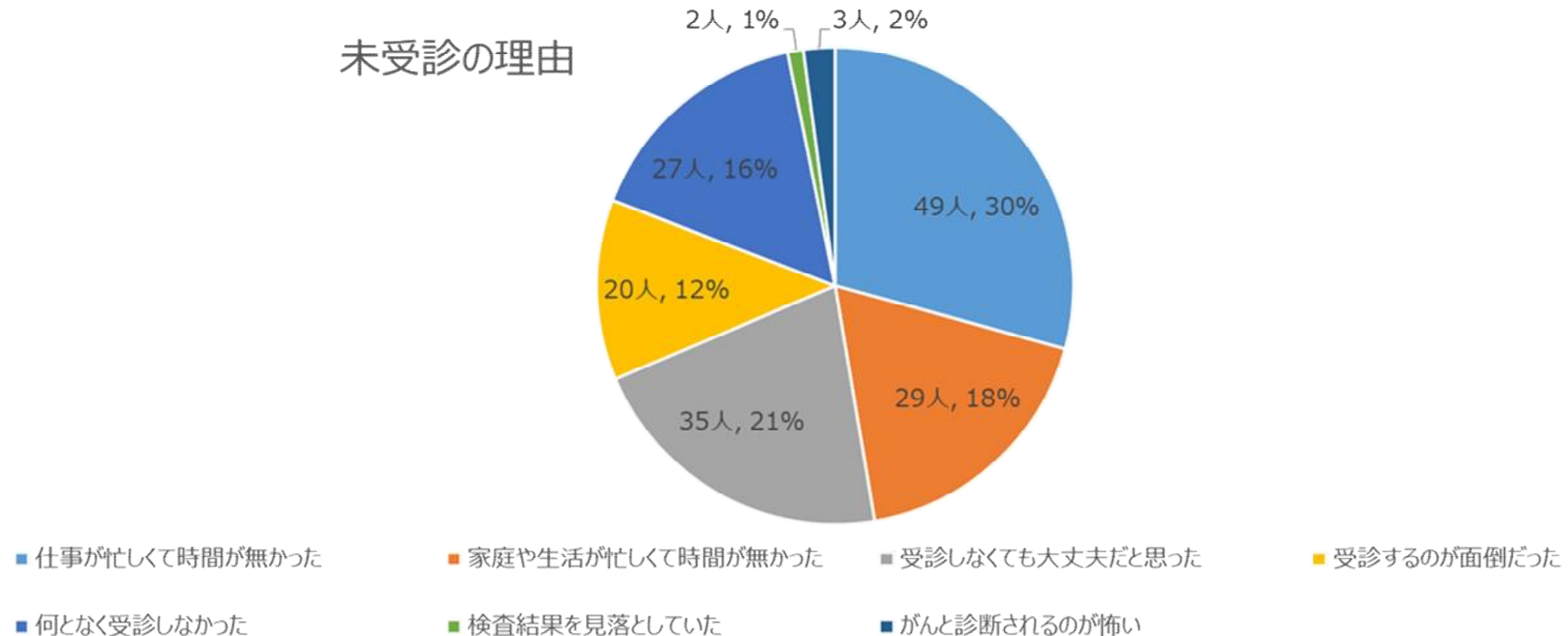
精密検査受診の状況 2021年実施のアンケートより

- 35歳以上の中外製薬グループ社員（契約社員を含む）5096名を対象にアンケートを実施（回答率79.3%）
- 要再検査と判定された485人中、166人（34.2%）が精密検査を未受診であることが判明
- なお、がん種別では子宮頸がん検査の受診率が高く、上部消化管検査、下部消化管検査の受診率が低い



がん精密検査未受診の理由 2021年実施のアンケートより

- 未受診の理由は「仕事、家庭や生活が忙しい」「受診しなくても大丈夫」「受診が面倒」「何となく受診しなかった」が大半を占めていた

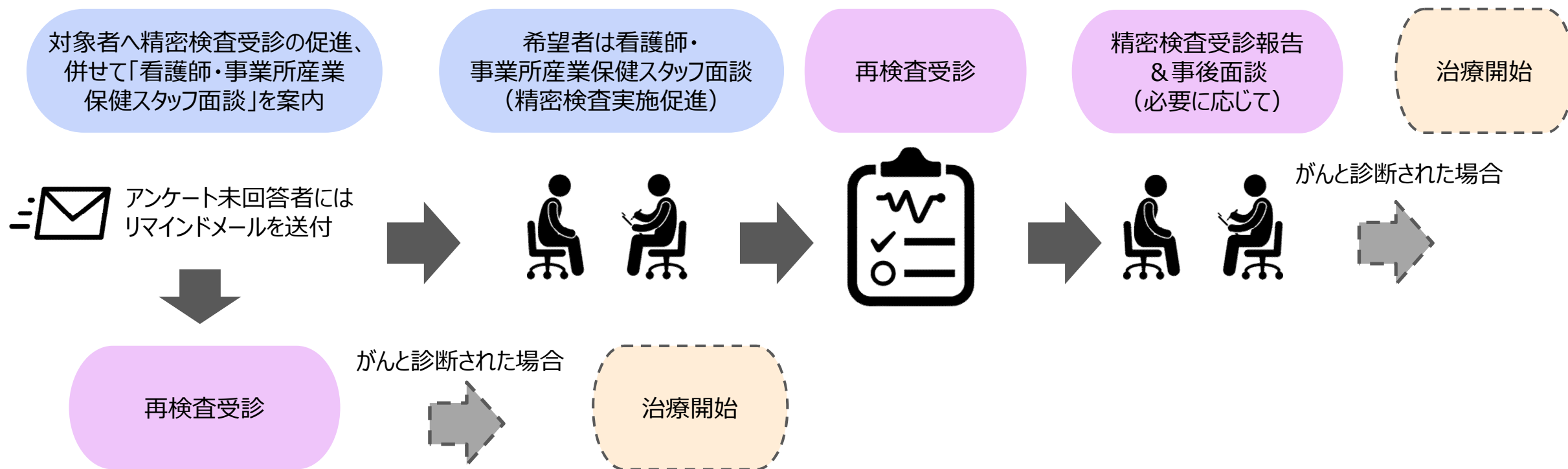


がんは「早期発見・早期治療」で予後が大きく改善されることから、社員を守るために、会社としてできることは？

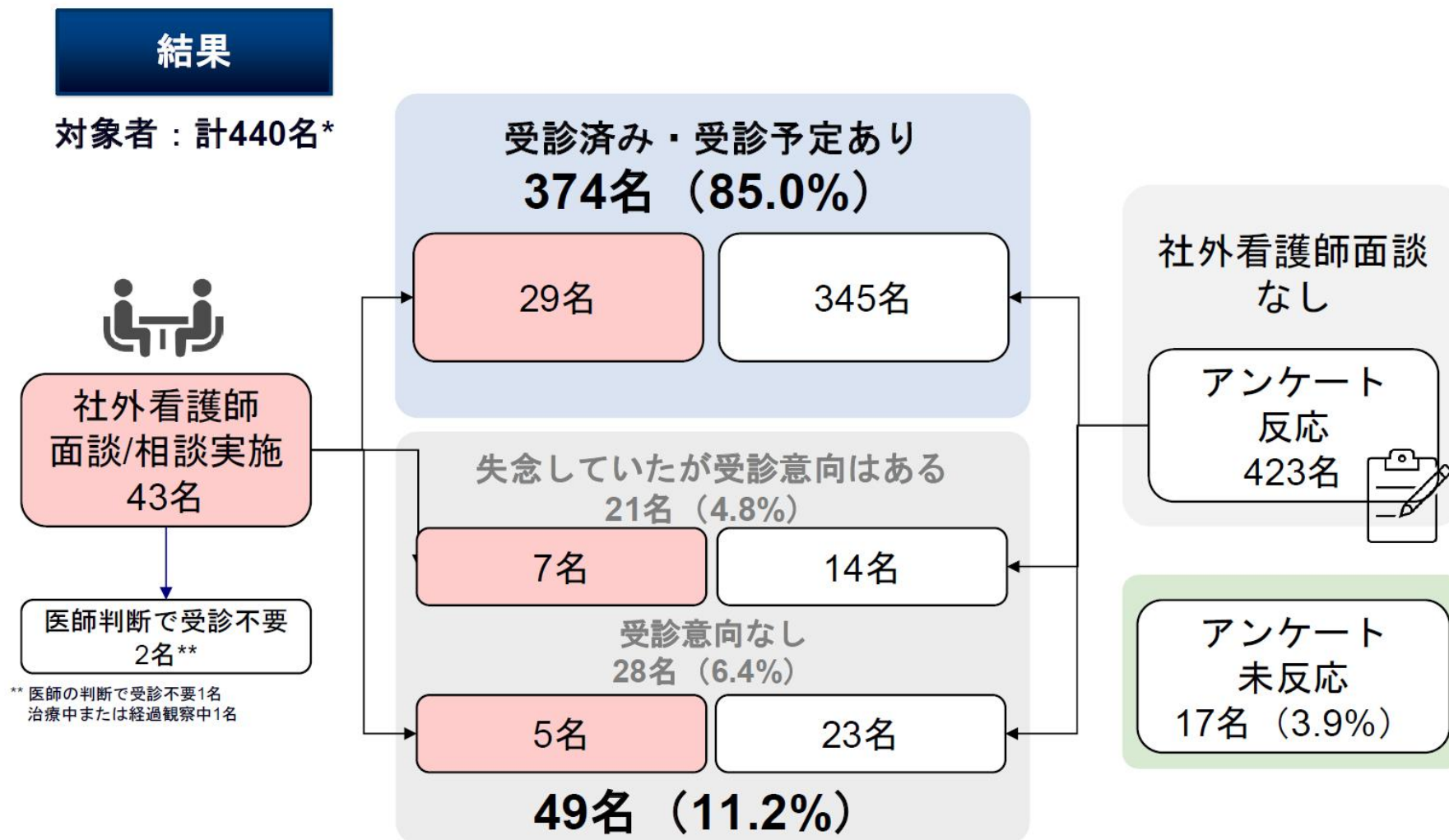
がん精密検査促進策のフロー

目的：がんの再検査受診率を高め、早期発見・早期治療に繋げることにより、社員の健康を守る

- ✓ 対象者の皆さん宛に、人事部健康支援担当より、再検査受診有無のご確認、がん治療経験のある看護師、もしくは事業所産業保健スタッフ（産業医・看護職）面談のご案内のメールを送付
- ✓ ご希望に応じて、看護師、もしくは事業所産業保健スタッフ（産業医・看護職）との面談を実施



がん精密検査促進策実施の効果(2025年度)



*リスト共有いただいた519名のうち
退職者(20名)、現在治療中または経過観察中、医師から受診不要と言われている方(59名)は除外

まとめ

- がんは「早期発見・早期治療」で予後が大きく改善される疾患
- 未受診の理由は「仕事、家庭や生活が忙しい」「受診しなくても大丈夫」「受診が面倒」「何となく受診しなかった」が大半を占めていた
- 会社は、社員一人ひとりが理解するための支援を行うことが大事
- 併せて、がん検診受診のハードルを下げる等、受診しやすい環境整備も必要

ご清聴いただき、ありがとうございました

創造で、想像を超える。

